

女性講師の田辺鶴瑛さん(五七)＝東京都杉並区  
 Ⅱが、実母ら三人の介護体験などを基に作ったオ  
 リジナル講談で話題を集めている。特別養護老人  
 ホームで介護職員としても働く、自らの現場体験  
 を交えた「介護講談」には説得力があり、観客か

ら共感も寄せられる。ともすると深刻になってし  
 まいがちな介護の話題だが、「不真面目な介護」  
 を提案し、「笑いながら考えてもらおうきっかけに  
 なれば」と高座に向かう。

(神野栄子)

# 肩肘張らず「不真面目」に



笑い

①重い話題も陽気に。介護講談を披露する鶴瑛さんⅡ都  
 内で(◎ヤナガワゴーツ) ③介護スタッフとして働  
 く田辺鶴瑛さん④。ホームの利用者とも積極的に会話す  
 るⅢ東京都目黒区の特別養護老人ホーム「駒場苑」で



介護

## 講談師・田辺鶴瑛さん 実体験基に提案

「認知症なんてなりたく  
 ないと思うでしょ!」

東京都内の寄席。張扇の  
 音が勢よく響き、詰めか  
 けた人たちはじっと次の言  
 葉を待つ。「うちのおじい  
 ちゃんの場合はな〜んにも  
 覚えてない。自分が寝たき  
 りだって覚えてないんだか  
 ら!」。重い話のはずが、  
 陽気な語り口に客席から笑  
 いがおきる。

北海道函館市で生まれ育  
 った。十八歳の時に母親が  
 寝たきりになり介護。上京  
 して二十六歳で結婚した  
 後、義母が倒れて再び介護  
 を経験した。

講談の世界に飛び込んだ  
 のは一九九〇年。テレビで  
 見て憧れていた田辺一鶴さ  
 んに入門し、講談の世界に  
 飛び込んだ。二ツ目にな  
 ったころから、古典の傍  
 ら、新作で介護を取り上げ  
 るようになった。介護保険  
 制度が始まると、自治体な

どから介護講談の依頼が舞  
 い込むようになった。

講談が軌道に乗ったこ  
 ろ、今度は義父が寝たきり  
 に。「二人の母は病院の高  
 度医療を受けて亡くなった  
 が、幸せだったのか。おじ  
 いちゃんも畳の上で死なせ  
 てやるう」。六年間の在宅  
 介護で義父をみとった。介  
 護と講談をこなしながら、  
 ヘルパー二級(現介護職員  
 初任者研修)の資格を取  
 得。四月からは一月に十  
 日ほど、東京都目黒区の特  
 別養護老人ホーム「駒場  
 苑」で食事やトイレなどの  
 介助スタッフとして働きつ  
 つ、ホーム利用者に講談も  
 読む。

家族の介護は昼夜を問わ  
 ず三百六十五日。大変な割  
 に評価もされず、疲れるば  
 かり。そこで鶴瑛さんが提  
 案するのが「不真面目な介  
 護」だ。「不謹慎かもしれ  
 ないけど、義父の場合はご  
 まかしが利いた。いいかげ  
 んな私の性格と認知症が合  
 ったのかも」と笑う。「明  
 るい心持ちで楽しむ余裕  
 を」との呼び掛けに、介護  
 に悩む観客からは「気晴ら  
 したくなった」「参考になっ  
 た」などの声が寄せられる。  
 だれにでも「終活」の前  
 に「介護」の時がある。「多

くの人にボランティアなど  
 で介護を体験してほしい」  
 と話す。いざ直面したとき  
 のための、心の準備にもな  
 るからだ。

首都圏での主な介護講談  
 の予定は次の通り。

十九日午後六時、千葉県  
 旭市の「ヒューマンプラザ  
 黄鶴」四階ホール。問い合  
 わせは、介護保険事業所  
 「すずらん会」Ⅱ電04  
 79(73)6221▽八月  
 十六日午後一時、東京・お  
 江戸日本橋亭で娘の講師師  
 銀治さんと母娘で「アツパ  
 レ介護」。問い合わせは鶴  
 瑛さんⅡ電03(3399)  
 9168へ。